

止まり木



心を開いて相手の心に近づく



今日は堤中学校生徒10カ条の6番目、「**大きな声であいさつ、丁寧な言葉遣い**」について全校集会でお話ししました。

忘れもしません。校長先生がこの横堤中学校に転勤が決まり、初めて挨拶のために訪れた時、部活動中の生徒に出会いました。目が合った瞬間に

「こんにちわ!」とその生徒は気持ちよく初めて見る顔の校長先生にあいさつをしてくれました。その瞬間にこんな生徒がいる学校に転勤できてよかったあという気持ちと安心感がわいてきたことを今でも忘れません。今も多くの人が朝の登校時や廊下で出会ったときにあいさつをしてくれます。自分から先にあいさつしてくれる人、しっかり顔を見て会釈も交え挨拶できる人、そして最上級の挨拶をしてくれる人は笑顔を添えてくれます。本当に心が温まります。逆に挨拶をこちらからしても知らん顔の人少なからずいます。少し、寂しい気持ちになります。

あいさつ(挨拶)の「あい」には、**心を開く**という意味、「さつ」には、その**心に近づく**という意味があります。要するに、あいさつとは、自分の心を開くことで、相手の心を開かせ、相手の心に近づいていく積極的な行為(良好なコミュニケーション)のことです。

みんなは「あいさつ」が自然にできていますか?挨拶は「あなたの存在を見つけました。よろしく願います」という人間関係をスタートさせるためのコミュニケーションの第一歩といえます。相手の目を見て、明るく、元気よく、心を込めてするのが挨拶の基本です。また、挨拶のしかたによって、常に自分や学校、所属クラブが評価されていることを忘れてはいけません。そこであいさつの4か条を以下に示します。

『あいさつの4ヶ条』は、頭文字が「あ」「い」「さ」「つ」で始まります。

「あ」：明るく、温かく

あいさつの「あ」は、あいさつをする上での大前提、大原則と言っても過言ではないでしょう。

「い」：いつでも、誰にでも

わたしたちはつい、知っている人だけにあいさつをしがちですが、思いがけないつながりを持つためにも、いつでも、誰にでも、積極的にあいさつをしておきたいものです。

「さ」：先に、すすんで

あいさつは人より先に行くことが大切とされています。先にあいさつをするということは、相手よりも早く好意を示すことです。

「つ」：続けて、次の言葉を

あいさつの「つ」には二つの意味があります。一つは、「挨拶という行為を続ける」ということです。あいさつは一度きりではなく、続けることが大切です。もう一つは、「あいさつに次の言葉を加える」です。「次の言葉」とは、相手との会話を続けるための言葉です。「おはよう、今日は暑いね〜」「こんにちは。あ、昨日はありがとう!」のように、あいさつの後にプラスαの言葉を続けることで、相手とのコミュニケーションがより活発になります。以上が、あいさつの4ヶ条(「あ」「い」「さ」「つ」)です。

さあ!心を開き、相手を敬う気持ちを忘れず、**学校中に明るい挨拶の声が響き渡る**ような横堤中学校をみんなで築いていきましょう。